

FAIRLADY 240ZG



一見するとノーマルのフェアレディ240Zそのものだが、よく見るとノーマルのそれより小さいキャビンに気づくはず。そうチョッピングZなのだ。チョッピングといっても、ただ単にルーフを切って縮めたものではなく、このZの場合は、Aピラー、Bピラー、Cピラーの、それぞれのピラーの中央部で切って80mmもつめている。もちろん、フロントのウインドスクリーンやサイドのウインドーもそれに合わせてカットされている。それと、低くされた車高のためルーフラインも若干だが違っている。ノーマルよりルーフからテールにかけて40mmも短くなっており、何となく猫背のスタイルになっている。これをもっと強調しているのがつぶされたリアのクォーターウインドーで、スタイルだけでなく補強の意味もあるという。その他では、ハンドメイドのチンスポイラー、これはノーマルより30mm長くされている。チョッピングの狙いは、何とんでも空気抵抗を少なくし、最高速をかせげるといふもの。エンジンは3.1ℓ、ピストンクーラー付。タイヤはP 7・225/50 V R 14を7.5 J×14のシャドーにはく。100万円以下の改造費でできるチョッピングはこれからのチューニングカーの流行になりそうだ。(牧原道夫)

